
医学教育分野別評価

福井大学医学部 年次報告書

2025（令和7）年度

医学教育分野別評価 福井大学医学部医学科 年次報告書 2025年度

医学教育分野別評価の受審 2023（令和5）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.34

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.36

はじめに

福井大学医学部医学科は、2023年度に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2024年10月1日付で認定された（認定期間：2024年10月1日～2031年9月30日）。医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36 を踏まえ、2025年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2024年1月から本報告書提出前年度末である2025年3月までを対象としている。なお、医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.36の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

「愛と医術で人と社会を健やかに」を理念と定めている。また、理念を具現化するため「卒業時に身につけるべき学修成果」として3項目のアウトカムと大領域8項目、小領域36項目からなるコンピテンシーを定め、教育を実施している。コンピテンシーに「福井医療力」を挙げ、社会的要請に対応していることは評価できる。理念の策定においては、教職員、学生、医学部同窓会組織「白翁会」、附属病院スタッフに対して2回のパブリック・コメントを実施している。

使命およびアウトカム・コンピテンシーの策定には主要な構成者である学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。学修成果を教職員および学生に確実に周知すべきである。

1.1 使命

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 2017年度に「愛と医術で人と社会を健やかに」を理念として制定した。また、「教える目的」として、教育目的と人材育成目標を定め周知している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 医学部の使命として、医学部理念「愛と医術で人と社会を健やかに」および「教育目的・人材育成目標」を、医学部ホームページやシラバス、講義室内掲示等により広く明示している。

【資料1-1-1】 【資料1-1-2】 【資料1-1-3】

- ・ 2024年度に「医学部附属教育支援センターホームページ」の改修を行い、教育目的を踏まえて医学部内で実施したFDにかかる資料や動画をまとめた「教育関係FD／SD」、主要な学生アンケート集計結果等の情報をまとめた「点検・評価／データ集（IR部門）」のページを新たに追

加整備した。これらのページは、現時点では医学部内の教職員が閲覧可能となっている。【資料1-1-4】

今後の計画

- ・ 2025年度より医学部ホームページリニューアルワーキンググループを学部長のもとに組織し、「医学部ホームページ」の改修検討を行うこととした。その過程において、医学部の使命及び理念について、医学部外の大学の構成者、ならびに医療と保健に関わる分野の関係者に、より広く分かりやすく周知することを検討する。
- ・ 使命に含まれる「医師として定められた役割を担う能力」は、本学では卒業時に修得すべき学修成果（アウトカム）、それらを達成するために卒業までに修得すべき能力（コンピテンシー）に位置づけられている。現状では、教員及び学生へはシラバス等により周知を図っているが、より確実な周知方法を検討する。
- ・ アウトカム・コンピテンシーについても、使命及び理念と同様に、「医学部ホームページ」改修検討時に、医学部外の大学の構成者、医療と保健に関わる分野の関係者を対象とした、広く分かりやすい周知を行うことを検討する。

根拠資料

資料1-1-1_医学部ホームページ（理念）<https://www.med.u-fukui.ac.jp/introduction/idea/>

資料1-1-2_医学部ホームページ（教育目的、アウトカム・コンピテンシー）

<https://www.med.u-fukui.ac.jp/department/medicine/purpose/>

<https://www.med.u-fukui.ac.jp/department/medicine/competency/>

資料1-1-3_2024年度医学科授業要項THE SYLLABUS抜粋 10～16ページ

資料1-1-4_令和6年度福井大学医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会 資料7（抜粋）

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部教育委員会および医学科カリキュラム委員会が自律性を持ってカリキュラムの作成を行っている。
- ・ 医学系部門企画調整会議および医学系部門会議の議を経て教育研究経費を決定している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 医学科カリキュラム委員会においてカリキュラムの作成を行っている。【資料1-2-1】

今後の計画

- ・ 2025年度以降も、医学科カリキュラム委員会がカリキュラムの作成を行い、その上で教育委員会および医学部教授会の承認を経てカリキュラムの実施と運営を行う。

根拠資料

1-2-1_令和6年度第2回医学科カリキュラム委員会議事録

1.3 学修成果

基本的水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 理念を具現化するための「卒業時に身につけるべき学修成果」として3項目のアウトカムと6年間で修得すべき能力をコンピテンシー（大領域8項目、小領域36項目）として定めている。
- ・ コンピテンシーに「福井医療力」を挙げ、その小領域に「福井医療事情」、「救急医療」および「緊急被ばく医療」を具体的に含めることで、社会的要請に対応していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとることを学則、行動規範などに定めるべきである。
- ・ 教職員および学生に学修成果を確実に周知すべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 2024年度に、大学として「福井大学学生行動規範」を制定し、教職員及び全学生に周知した。制定にあたっては、2度にわたる各学部での検討、全学生を対象としたパブリック・コメントを2024年度内に実施した。【資料1-3-1】
- ・ 学修成果としてのアウトカム・コンピテンシーについて、医学科1年次必修科目「医学入門」において入学直後に講義し、学生の理解を深めることとし、翌年度の2025年度「医学科授業要項（シラバス）」に変更後の講義予定を反映している。【資料1-3-2】
- ・ 全学生（5年次生を除く）に、各学年末にアウトカム達成度自己評価アンケートにより自己評価を求めており、学修成果の自己評価を行う過程を通じて学修成果について理解を深めている。【資料1-3-3】

今後の計画

- ・ 行動規範および学修成果としてのアウトカム・コンピテンシーについて教職員および全学生への周知を更に進める。
- ・ 学生への学修成果の周知として、2025年度より、新入生には副学部長によるオリエンテーションや、入学直後に行われる医学科1年次必修科目「医学入門」に説明を組み込むことが決定している。他学年については、各学年の4月に実施する学年主任オリエンテーションの際に説明し周知する。教員に対しては、主要授業科目を担当する助教以上のすべての教員を構成員とする医学部基幹教員会議で周知する機会を設け、また学修成果周知度アンケートなどを行い、周知状況について調査する。
- ・ アウトカム達成度自己評価アンケートの結果については、今後も引き続き教授会で報告するほか、新たに医学部基幹教員会議においても報告し、学修成果についてより広い教員への周知を図る予定である。

根拠資料

資料1-3-1_令和 7 年 3 月18日医学部教授会 資料12(行動規範)

資料1-3-2_2025年度医学科授業要項THE SYLLABUS (案) より「医学入門」

資料1-3-3_医学科アウトカム達成度自己評価アンケート

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命およびアウトカム・コンピテンシーの策定には学生を含む主要な構成者が参加し、適切に議論に加わるべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 現行の使命と学修成果は、学生を含めた意見聴取のもとに策定され、2018年度より明示しているが、その後の見直しは行っていない。現在は使命と学修成果に基づいた医学教育を進めており、国立大学法人第4期の中期目標・中期計画にその旨を明記している。【資料1-4-1】

今後の計画

- ・ 使命及びアウトカム・コンピテンシーの見直しは、法人評価の第4期（令和9年度（2027年度）まで）の成果を踏まえ、令和10年（2028年）以降に必要となると考えられる。本学医学科の特徴として、見直しの際には教務IRデータの分析結果を踏まえての検討となるため、IR部門を擁する教育支援センターと連携を取りながら、学生を含む主要な構成者が議論に加わることができる体制を確保する予定である。

根拠資料

資料1-4-1_国立大学法人福井大学 第4期中期目標・中期計画 7ページ

2. 教育プログラム

「臨床教育支援システムF.CESS」を用いてカルテ記載など臨床実習を多面的に支援していることは高く評価できる。

すべての学生に対して十分な期間をかけて分析的で批判的思考を含む、科学的手法の原理、医学研究の手法を確実に教育すべきである。行動科学、医療倫理学に関連する内容を低学年から臨床実習まで、より体系的なカリキュラムとして実施する体制を構築すべきである。卒業後に適切な医療的責務を果たせるように、主要な診療科において、連続した十分な期間を確保して診療参加型臨床実習を実践すべきである。基礎医学において水平的統合カリキュラムをさらに拡充することが望まれる。基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合カリキュラムをより広い領域で実施することが望まれる。

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ アウトカム・コンピテンシーに基づいてカリキュラム・ツリーとカリキュラム・マップを定めている。

改善のための助言

- ・ 学生が自分の学修過程に責任を持てるように、学修意欲を刺激する学修方法をより積極的に採用すべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ アウトカム・コンピテンシーに基づいた教育を2018年度より開始し、現在も同一の教育プログラムにより実施している。
- ・ 新入生が医学部で行われている教育研究の全容を理解するために、2025年度より、医学科1年次生の必修科目「医学入門」で、主要な分野（研究室）や特徴的医学教育について学ぶ授業を取り入れることを、2024年度の医学科カリキュラム委員会で検討し決定した。【資料2-1-1】
- ・ 学修意欲を刺激する学修方法として、2024年度より、医学科2年次生の必修科目「組織・各臓器の構成、機能」「中枢神経系の機能と構造」及び医学科3年次生の必修科目「原因と病態」において、学生が自宅等でも利用できるオンライン補助教材として組織学バーチャルスライドを導入した。【資料2-1-2】

今後の計画

- ・ 学修成果の達成状況や医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版。以下、令和4年度改訂コアカリ）におけるカリキュラム編成などを調査し、より適切な教育プログラムへの改訂を行っていく。

根拠資料

資料2-1-1_令和6年度第2回医学科カリキュラム委員会 資料2（医学入門）

資料2-1-2_組織学バーチャルスライド”PidPort”利用法説明（学生向け）資料

2.3 基礎医学

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 令和4年度改訂コアカリに適應する基礎医学教育カリキュラムとなるよう、カリキュラム委員と科目担当コーディネーターの間で意見交換と科目内容の変更調整を行った。調整にあたっては2023年度途中から2024年度末にかけて担当コーディネーター宛に複数回の照会を行っており、このうち第1回目の照会結果については、2023年12月に開催した医学科カリキュラム委員会に附議している。【資料2-3-1】 【資料2-3-2】
- ・ 本学ではシラバスの【4・到達目標】として、該当科目で網羅している医学教育モデル・コア・カリキュラム項目を明示しているが、2025年度のシラバスを作成するにあたり、記載している同項目を令和4年度版改訂コアカリを踏まえた新たな内容に書き換えた。【資料2-3-3】

今後の計画

- ・ 2025年度においても基礎医学のカリキュラムについて、令和4年度改訂コアカリに適應するものとなるよう医学科カリキュラム委員会において検討調整を行う予定である。

根拠資料

資料2-3-1_令和5年度第3回医学科カリキュラム委員会議事要旨

資料2-3-2_令和5年度第3回医学科カリキュラム委員会 資料No.1-2

資料2-3-3_2025年度医学科授業要項THE SYLLABUS（案）抜粋 202-246ページ（基礎医学）

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 行動科学、医療倫理学に関連する内容を低学年から臨床実習まで、より体系的なカリキュラムとして実施する体制を構築すべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 医療倫理学については担当教員の異動があったため、新しく専任教員を選考し、今後カリキュラムの実践などを行うこととしている。【資料2-4-1】

今後の計画

- ・ 今後の医療倫理学教育について、新しく着任する予定の教員とカリキュラム委員会が中心となり検討する。

根拠資料

資料2-4-1_医療倫理学分野 准教授候補者の推薦について（公募・依頼）

2.5 臨床医学と技能

基本的水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 福井大学が独自に開発した「臨床教育支援システムF.CESS」を用いてカルテ記載、学生が経験した医行為・疾患の記録、指導医とのオンラインコミュニケーションなど、臨床実習を多面的に支援していることは高く評価できる。
- ・ 地域医療実習において健康増進のためのプログラムを実践している。

改善のための助言

- ・ 卒業後に適切な医療的責務を果たせるように、主要な診療科において、連続した十分な期間を確保して、診療参加型臨床実習を実践すべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 健康増進と予防医学の体験の強化として、2024年度から医学科4年次必修科目「社会と医学・医療Ⅱ」内で、従来の環境保健学講座の教員に加えて地域健康学講座（寄附講座）の教員が一部の授業を担当することとし、併せて、保健所実習を学生全員が経験するように授業内容の変更を行った。【資料2-5-1】 【資料2-5-2】
- ・ 主要な診療科において、連続した十分な期間を確保するため、2024年10月に開催した医学科臨床実習委員会および医学部教授会において、一部の主要診療科を合同実習の形で4週間行う新ローテーション表が審議、承認された。合同実習とした主要診療科は、内科A（内科学(1)、循環器内科）、内科B（消化器内科、神経内科）、内科C（呼吸器内科、内分泌代謝内科、腎臓病態内科学・検査医学）、外科（外科学(1)、外科学(2)）、小児科・産婦人科となる。各合同実習は期間が1セット4週間としている。2025年1月からスタートした「診療参加型臨床実習Ⅰ」は、その変更が反映された内容となっている。【資料2-5-3】 【資料2-5-4】
- ・ 臨床技能教育のために、医学部等教育・働き方改革支援事業（文部科学省令和4年度補正予算）により2023年度に購入した胸部診察シミュレーター、腹部診察シミュレーター、頸部・呼吸器系診察用シミュレーター等を、2024年度に新たに医学科4年次必修科目「基本的診療技能」における臨床技能教育に導入し、教育に利用した。【資料2-5-5】 【資料2-5-6】

今後の計画

- ・ 臨床実習委員会において合同実習をスタートした診療科を中心に実施状況の振り返りを行い、改善内容を検討し、次年度の内容改善につなげる。また、合同実習未実施の主要診療科についても導入の検討を行う。

根拠資料

資料2-5-1_2024年度医学科授業要項THE SYLLABUS抜粋 371～374ページ「社会と医学・医療Ⅱ」

資料2-5-2_2024年度「社会と医学・医療Ⅱ」保健所実習学生名簿

資料2-5-3_令和6年10月17日医学部教授会 資料No.2

資料2-5-4_令和7年度診療参加型臨床実習Ⅰローテーション表

資料2-5-5_令和6年度医学科4年基本的診療技能（実習分）日程表

資料2-5-6_医学部等教育改革支援事業（文部科学省令和4年度補正予算）でのシミュレーター購入概要

質的向上のための水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ すべての学生が早期から直接患者と接触する機会を持ち、徐々に患者診療への参画を深めていくことが望まれる。
- ・ 教育プログラムの進行に合わせてさまざまな臨床技能教育を確実に実施することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 医学科4年次からの診療参加型臨床実習Ⅰ開始直前期に、臨床技能に関わる教員による、実践的な医行為実技指導を2023年12月に導入し、2024年もこれを継続して実施した。シミュレーターを活用し、指導教員1名に対し学生2～5名と非常に手厚い体制で全員が丁寧に手技を学ぶことができた、学生からも高評価を得ている。【資料2-5-7】 【資料2-5-8】
- ・ 早期からの患者との接触機会として、従前から開講してきた医学科1年次「コミュニケーションとチーム医療Ⅰ」及び「地域医療早期体験プログラム」での附属病院内エスコート体験実習の両科目について、2024年度も開講し、全員が受講した。【資料2-5-9】 【資料2-5-10】

今後の計画

- ・ 患者と接する機会の充実や臨床技能教育の内容について、カリキュラム委員会および臨床実習委員会で引き続き検討を行っていく。

根拠資料

資料2-5-7_令和6年1月18日医学部教授会 資料No.8

資料2-5-8_令和6年度診療参加型臨床実習前 医行為実技指導の実施について

資料2-5-9_2024年度医学科授業要項THE SYLLABUS抜粋 105～108ページ「コミュニケーションとチーム医療Ⅰ」

資料2-5-10_2024年度医学科授業要項THE SYLLABUS抜粋 109～110ページ「地域医療早期体験プログラム」

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 教育プログラムの全体像は学生便覧において教育課程表を履修年次と単位数を明示し、シラバスにおいてカリキュラム・ツリーによりアウトカム・コンピテンシーと関連付けた科目と学年対応、カリキュラム・マップでは科目と対応するアウトカム・コンピテンシーの達成レベルを明示している。【資料2-6-1】 【資料2-6-2】

今後の計画

- ・ 教育課程表、カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップについてはカリキュラム委員会で管理し、必要に応じて修正を行う。

根拠資料

資料2-6-1_学生便覧2024抜粋 108～112ページ

資料2-6-2_2024年度医学科授業要項THE SYLLABUS抜粋 11～28ページ

質的向上のための水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 基礎医学において水平的統合カリキュラムをさらに拡充することが望まれる。
- ・ 基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合カリキュラムをより広い領域で実施することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 選択科目として新たに2025年度から社会共創教育科目を導入することを、2024年度の医学科カリキュラム委員会において決定した。他学部との合同授業であり、専門教育で培った知識・スキルを社会生活とリンクさせる実践的教育として、2025年度より1年次生に5科目「地域創生学Ⅰ」「地域創生学Ⅱ」「福井の経済と経営者」「カーボンニュートラル事

業立案」及び「地域SDGs・ウェルビーイング創発学Ⅰ」を設定することとした。【資料2-6-3】 【資料2-6-4】

今後の計画

- ・ 統合カリキュラムの実施について関係委員会で検討を行っていく。

根拠資料

資料2-6-3_令和6年度第3回医学科カリキュラム委員会議事録

資料2-6-4_2025年度医学科授業要項THE SYLLABUS（案）より社会共創教育科目5科目

2.7 教育プログラム管理

基本的水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ組織を、より明確に規定すべきである。
- ・ そのすべての組織に学生の代表を含めるべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 医学科カリキュラム委員会が教育プログラムの立案と実施を行うことを、福井大学医学部教育委員会要項により明示している。【資料2-6-5】
- ・ 教育プログラムの立案と実施を行う医学科カリキュラム委員会に学生の代表が委員として参加し、議論に加わっている。
- ・ 2024年度中の医学科カリキュラム委員会において、2025年度より、1年次生共通科目に「社会共創教育科目」5科目を導入することを決定している。【資料2-6-3】

今後の計画

- ・ カリキュラム委員会には委員として学生が加わり、教育プログラムの管理を行う体制を維持する。

根拠資料

資料2-6-3_令和6年度第3回医学科カリキュラム委員会議事録

資料2-6-5_福井大学医学部教育委員会要項

3. 学生の評価

「臨床教育支援システムF.CESS」を活用して、ルーブリック方式で臨床実習における知識・技能・態度の評価を行っている。

臨床能力の評価に、Workplace-based assessmentを適切に取り入れるべきである。評価方法および結果に利益相反が生じないよう、規定を定めたうえで遵守すべきである。卒業時学科試験以外の定期試験においても、信頼性と妥当性を十分に検証し、明示することが望まれる。評価が、目標とする学修成果と教育方法に整合していることを明示して実践すべきである。学生が自身の学修進度を認識できるように、形成的評価の実施を促進すべきである。

3. 1 評価方法

基本的水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「臨床教育支援システムF.CESS」を活用して、ルーブリック方式で臨床実習における知識・技能・態度の評価を行っている。

改善のための助言

- ・ すべての科目において知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。
- ・ 臨床能力の評価に、Workplace-based assessmentを適切に取り入れるべきである。
- ・ 評価方法および結果に利益相反が生じないよう、規定を定めたうえで遵守すべきである。
- ・ 卒業時学科試験以外の試験問題も授業担当者以外が吟味すべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 「臨床教育支援システムF.CESS」（以下、F.CESSという。）上のルーブリックの評価項目数について、臨床実習における知識・技能・態度の評価を詳細に行うこと、特に診療技能の評価を単独で評価できるようにすることを目的とし、2024年12月からの診療参加型医臨床実習Ⅰにおいて、従来の6項目から10項目へ項目数を増やして評価を行った。【資料3-1-1】

今後の計画

- ・ 臨床実習評価のルーブリック表について、より到達目標を明確に表現することを含め、臨床実習委員会を中心に内容を引き続き検討する。
- ・ 評価方法および結果に利益相反が生じないよう、規定を定めることを試験委員会を中心に検討する。
- ・ 研究室配属の評価を、技能と態度の点から評価するためのルーブリック評価を取り入れることをカリキュラム委員会で検討する。

根拠資料

資料3-1-1_F.CESS学生評価ルーブリック画面（変更前及び変更後）

3. 2 評価と学修との関連

基本的水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 評価が、目標とする学修成果と教育方法に整合していることを明示して実践すべきである。
- ・ 目標とする学修成果を学生が達成していることを確実に保証する評価を実践すべきである。
- ・ 学生が自身の学修進捗を認識できるように、形成的評価を促進すべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 一般的な評価、及びアウトカム達成度による学修成果については、授業科目、医学科4年次の共用試験、医学科6年次の卒業時学科試験及びPost-CC OSCEにより評価を行っている。この旨は、シラバスにも明記している。また、これらの評価結果を踏まえ、教育支援センタープログラム評価委員会、同医学科専門部会を開催し、直近の最高学年在学学生を主な対象として、医学教育のプログラム評価を行った。【資料3-2-1】 【資料3-2-2】 【資料3-2-3】
- ・ 臨床実習については、各診療科でルーブリック形式による知識・技能・態度の評価実施を継続している。

今後の計画

- ・ 各授業科目について、評価と学修の関係について関係委員会において検討を進める。

根拠資料

資料3-2-1_2024年度医学科授業要項THE SYLLABUS抜粋 29～33ページ

資料3-2-2_令和6年度第1回医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会医学科専門部会議事要旨

資料3-2-3_令和6年度福井大学医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会議事要旨

4. 学生

福井県と協議し、福井県の地域医療を支える人材を採用するために多様な入学者選抜制度を採用している。医学部学生委員会、学年主任、助言教員、アドバイザー制度など、多層的に学生のサポートの仕組みを構築している。アドバイザー教員が年に2回、eポートフォリオをもとに、面談を実施している。

使命の策定、および学生に関する諸事項を審議する委員会に学生の代表を参加させるべきである。

4. 1 入学方針と入学選抜

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 身体に不自由がある学生の入学後の対応についても、合理的配慮の方針が定められホームページに明示されている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 2024年度は、入学方針と入学選抜について、アドミッションポリシー及び募集要項により大学ホームページ上で公開の上、従来通りに実施した。【資料4-1-1】
- ・ 選抜状況は入学志願者資料集として大学ホームページにおいて公表している。【資料4-1-2】
【資料4-1-3】

今後の計画

- ・ 従来通りの入学方針と入学選抜を実施する。

根拠資料

資料4-1-1_福井大学ホームページ_入試情報・募集要項

https://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/examination/

資料4-1-2_福井大学ホームページ_入試データ

https://www.u-fukui.ac.jp/user_admission/admission_data/

資料4-1-3_入学志願者資料集2024

4. 2 学生の受け入れ

質的向上のための水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「地元出身者枠」と「地域枠（福井健康推進枠）」の人数を、地域医療の状況に合わせ調整している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 地域と社会からの健康に対する要請に応えるべく、地域枠（福井健康推進枠）の定員を令和 8 年度入学者から増員し、そのうち 5 名は地域からの派遣要請が多い診療科の医師として養成する旨を記載した文書「地域枠の医師に係る協力について」を、令和 7 年 3 月 19 日付けで福井県と合意した。【資料4-2-1】

今後の計画

- ・ 令和 7 年度に実施する令和 8 年度入学者選抜から、地域枠（福井健康推進枠）の定員を 5 名増員で実施するために福井県と準備を進めるとともに、地域と社会からの健康に対する要請に対応できるよう、継続して福井県と意見交換を行っていく。

根拠資料

資料4-2-1_令和 7 年 3 月 19 日付文書「地域枠の医師に係る協力について」

4. 3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部学生委員会、学年主任、助言教員、アドバイザー制度など、多層的に学生のサポートの仕組みを構築している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 医学部学生委員会による統轄のもと、学年主任と助言教員により新入生オリエンテーション（1 年次生対象）、及び学年主任オリエンテーション（2 年次生～5 年次生）を実施している。また、1 年次生～3 年次生全学生及び 4 年次生の一部学生を対象とし、アドバイザー制度による面談を実施している。【資料4-3-1】
- ・ 留年となった学生には学年主任による個別面談を実施している。
- ・ 5 年次生及び 6 年次生では、成績下位学生を対象として、教員で構成される国試対策サポートチームが学修に関する個別指導を行っている。【資料4-3-2】 【資料4-3-3】

今後の計画

- ・ 従来から実施している多層的な学生指導を継続する。その中での学生アンケートや聞き取りによるフィードバックを踏まえ、良い支援方法を学生委員会を中心に検討する。

根拠資料

資料4-3-1_医学部学生支援システム アドバイザー面談について(依頼)

資料4-3-2_令和 6 年度第 1 回国試対策サポートチーム会議議事要旨

資料4-3-3_令和 6 年度サポート学生一覧 (10.11月)

4. 4 学生の参加

基本的水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命の策定を審議する委員会に学生の代表を参加させるべきである。
- ・ 学生に関する諸事項を審議する医学部学生委員会に学生の代表を参加させるべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ カリキュラム委員会に学生が参加し、教育プログラムの策定と管理について議論に加わっている。【資料4-4-1】
- ・ 教育支援センターにおいて、教育プログラム評価に関する定期的なミーティング（定例ミーティング）に、教員、職員、学生（学年代表）が参加している。【資料4-4-2】
- ・ 教育支援センタープログラム評価委員会の医学科専門部会を開催し、教育プログラム評価に関する議論に学生が参加した。【資料3-2-2】
- ・ 「福井大学医学部学生委員会における学生委員の参画に関する申合せ」を制定し、学生に関する諸事項を扱う「学生委員会」に学生が参加する制度に変更した。【資料4-4-3】 【資料4-4-4】

今後の計画

- ・ 今後も教育プログラムの策定、管理、評価および学生に関する諸事項を扱う各種委員会に学生の代表が参加する体制を維持する。

根拠資料

資料3-2-2_令和6年度第1回医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会医学科専門部会議事要旨

資料4-4-1_令和6年度医学科カリキュラム委員会委員名簿

資料4-4-2_令和6年度第4回教育支援センター定例ミーティング議事録

資料4-4-3_令和6年度第3回医学部学生委員会議事要旨

資料4-4-4_福井大学医学部学生委員会における学生委員の参画に関する申合せ

5. 教員

福井県の地域医療と関連した「地域医療推進講座」、「地域健康学講座」、「地域プライマリケア講座」、「地域高度医療推進講座」を寄附講座として設置し、教員を採用している。

教員の募集と選抜方針において教育的業績についての判定水準をより明確に示すべきである。個々の教員が福井大学の医学教育の現状をより十分に理解できるように、計画的に教員の能力開発を実施すべきである。

5. 1 募集と選抜方法

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 教員の募集と選抜方法において教育的業績についての判定水準をより明確に示すべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 医療倫理学については新しい専任教員を選考した。選考の過程においては、医療倫理学において実践すべき教育について明示し公募を行い、応募者の教育実績（教育の概要と抱負）について、応募書類により確認の上、選考講演会において議論を行った。新たな教員は2025年度に着任することとなっている。【資料2-4-1】
- ・ 共通教育系（物理学・情報科学）、基礎医学系（生理学）および臨床医学系教授（呼吸器内科学、麻酔・蘇生学）の退職に際し、カリキュラムの適切な運営のため公募で募集することを企画調整会議および医学系部門会議で審議の上、募集と選考を行い、2025年度の着任となっている。【資料5-1-1】 【資料5-1-2】
- ・ 教員の募集に際して、教育的業績を明示することができるよう、公募文上の応募書類の項目（9）に示すとおり、「教育の概要と抱負」について独立した項目を設けた。【資料2-4-1】 【資料5-1-1】 【資料5-1-2】

今後の計画

- ・ 教員の募集と選考においてはカリキュラムの適切な運営が可能となるよう企画調整会議および医学系部門会議で検討を行っていく。2025年度においても定年等で退職する教員がいるため国内外への教員公募を行っていく。

根拠資料

資料2-4-1_医療倫理学分野 准教授候補者の推薦について（公募・依頼）

資料5-1-1_物理学・情報科学分野 教授候補者の推薦について（公募・依頼）

資料5-1-2_生理学分野 教授候補者の推薦について（公募・依頼）

5. 2 教員の活動と能力開発

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 個々の教員が福井大学の医学教育の現状をより十分に理解できるように、計画的に教員の能力開発を実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 教員の活動について、「福井大学学術研究院医学系部門教員業績評価実施要項」に基づいた評価を毎年実施している。その中で教育、研究、診療などのエフォートを登録し、自己評価および他者評価を実施している。【資料5-2-1】
- ・ 主要授業科目を担当する助教以上の全教員が参加する「医学部基幹教員会議」を年1回開催し、カリキュラムと学修成果としてのアウトカム・コンピテンシーについて取り上げ、カリキュラム全体について審議し理解する場としている。【資料5-2-2】
- ・ 2024年度、FDに関する全学的実施方針として「福井大学の教育におけるFD・SDの基本方針」が整備・制定され、FDの位置づけが改めて明確に示された。【資料5-2-3】【資料5-2-4】
- ・ 医学部においても2024年度に10件のFDを行い、うち4件が医学科教員を対象としたものだった。なお、FD件数は2022年度に5件、2023年度に8件であり、2024年度の10件は増加傾向にある。また、2024年度中に教育支援センターのホームページ内の「教育関係FD/SDページ」を整備し、同ページ内に学内者限定で実施済みの医学部FDの概要、資料を閲覧できる「教育関係FD研修アーカイブ」を新設し、医学部内の教職員に周知した。【資料5-2-5】【資料5-2-6】
- ・ 新任教員を中心に、教育支援センターにより医学部教育概要と医学科教育プログラムについて説明動画を作製し、視聴を促している。
- ・ 新任教授に対し、副医学部長（教育担当）と学務課教務担当者が担当科目の説明とあわせて、学部の使命や学修成果、委員会構成などを個別に説明している。【資料5-2-7】

今後の計画

- ・ 個々の教員が医学教育の現状を理解し、教育能力の向上に寄与できるFDなどを実施する。

根拠資料

資料5-2-1_福井大学学術研究院医学系部門教員業績評価実施要項

資料5-2-2_福井大学医学部基幹教員会議要項

資料5-2-3_福井大学の教育におけるFD・SDの基本方針

資料5-2-4_令和7年3月4日教育研究評議会議事要旨

資料5-2-5_医学部FD活動実績（令和4～6年度）

資料5-2-6_医学部教育支援センターホームページ_教育関係FD/SD

<https://www.med.u-fukui.ac.jp/laboratory/education/fd-sd/>

資料5-2-7_新任教授医学科教育プログラム説明会_生理学教授

6. 教育資源

「臨床教育支援システムF.CESS」、「遠隔授業支援システムF.MOCE」、「医学画像学修システムF.MILS」を独自に開発し、学生の効果的な学修に活用していることは評価できる。

学内外の臨床実習について、各学生が経験する患者数と疾患分類を分析し、学生が適切な臨床経験を積めるよう臨床実習施設を整備すべきである。

6. 1 施設・設備

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 附属病院の「スキルラボ」にPC端末が整備され、電子カルテ閲覧と「臨床教育支援システムF.CESS」を学生が24時間利用可能になっている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 基礎実習棟を全面改修し、講義室の拡張や空調システムなどの基盤整備と更新を行った。併せて、実習に利用する教育システムを「次世代の基礎医学 DX 教育システム」として整備した。講義室や実習室で利用する AV システムをすべて更新した。以上の施設・設備整備により、学生の基礎医学教育の学修環境を整備し、カリキュラムのより適切な運営を行っている。【資料 6-1-1】
- ・ 大規模災害等の危機発生時に、学生及び教職員の安否確認を迅速かつ確実に実施するためのシステム福井大学安否確認システム（ANPIC）について、2024 年度より、新入生を対象としたオリエンテーションに説明を導入した。併せて、学生および教職員の安否確認体制を整備し、安否確認の練習を行った。【資料 6-1-2】 【資料 6-1-3】

今後の計画

- ・ 学生のための施設・設備の整備を計画的に行っていく。特に老朽化が見られる臨床講義室の改修を行う。
- ・ 学生ロッカーの老朽化や男女数の変化などに適応できるよう、ロッカー室の再整備を学生委員会を中心に行っていく。

根拠資料

資料6-1-1_2024年度基礎医学実習棟改修概要

資料6-1-2_令和 6 年度新入生オリエンテーション資料抜粋（ANPIC説明）

資料6-1-3_第 4 回全学教務学生委員会資料（抜粋）

6. 2 臨床実習の資源

基本的水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 学内外の臨床実習について、各学生が経験する患者数と疾患分類を分析し、学生が適切な臨床経験を積めるよう臨床実習施設を整備すべきである。
- ・ 学生評価が適切に行われるように学外の臨床実習指導者への教育能力開発を充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 学内の臨床実習において活用しているF.CESSにAI模擬患者を新たに導入し、必要な疾患についてPCを通して問診と診断のトレーニングができるシステムとした。【資料6-2-1】
- ・ 2025年1月開始の医学科4年次対象の「診療参加型臨床実習Ⅰ」において使用しているF.CESSに、①医行為記録の入力方法の追加（例：スマートフォンからの入力対応）、②カルテ記載機能のバージョンアップ（画像貼付機能や疑似オーダー機能の追加）を行い、運用を開始した。【資料6-2-2】 【資料6-2-3】

今後の計画

- ・ 追加した機能の使用状況の振り返りを行い、改善内容を検討する。今回の追加機能は、学内の臨床実習が中心となっていたため、学外の臨床実習へどのように展開するかを検討を行う。

根拠資料

資料6-2-1_F.CESS上AI模擬患者デモ画面

資料6-2-2_F.CESS上医行為入力デモ画面

資料6-2-3_F.CESS上カルテ記載機能のバージョンアップデモ画面

6. 3 情報通信技術

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 全学年を対象にセキュリティ研修を実施し、理解度のテストを行っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 2024年度に、物理学分野担当の教授として情報科学にも精通した教員を公募し、2025年より新たな教員が着任する予定である。新たな教員の分野名は物理学・情報科学としている。【資料5-1-1】

- ・ 2024年度より、教育支援センター医学部教育ICT推進部門を新たに設置し、情報通信技術を活用した教育の教職協働体制を構築した。【資料6-3-1】
- ・ 2023年度末に、全学組織である総合情報基盤センターの管轄下にある福井大学松岡キャンパス情報ネットワーク委員会において、①セキュリティ対策として、総合情報基盤センターによる仮想サーバー利用を各部局に推奨すること②学外の教育関係者が本学仮想サーバーを利用する場合にも、利用者を個人別に確実に把握し、該当部局が統一認証システム利用登録申請を行い、総合情報基盤センターが大学統一認証を発行した者に限定しての利用を厳格に行う方針が示された。これを受け、2024年度の教育支援センター医学部教育ICT推進部門運営委員会において同方針を共有し、今後の検討内容を確認した。【資料6-3-2】 【資料6-3-3】 【資料6-3-4】

今後の計画

- ・ 医療情報部の教員が定年により退職することから新たな教員の募集を行う。新たな教員には医療情報学分野における教育（CBT等の情報システムの運用支援を含む）やセキュリティ、個人情報保護等の教育及び管理に関する業務などを担うことを募集要項に明示することを検討する。

根拠資料

資料5-1-1_物理学・情報科学分野 教授候補者の推薦について（公募・依頼）

資料6-3-1_福井大学医学部附属教育支援センター医学部教育ICT推進部門要項

資料6-3-2_福井大学総合情報基盤センター規程

資料6-3-3_令和5年度第2回松岡キャンパス情報ネットワーク委員会議事要旨

資料6-3-4_令和6年第1回医学部附属教育支援センター医学部教育ICT推進部門議事要旨

質的向上のための水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「臨床教育支援システムF.CESS」、「遠隔授業支援システムF.MOCE」、「医学画像学修システムF.MILS」を独自に開発し、学生の効果的な学修に活用していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 基礎医学実習に利用するICT教育システム「次世代の基礎医学DX教育システム」を整備し、解剖学実習では多視点3D解剖教育システムによりオンライン上で御遺体解剖を常時学ぶことができるシステムを導入し、組織学実習では自宅等でもオンライン利用できる組織学バーチャルスライドを導入した。これらのシステムにより、学生の実習や自己学修に役立つ環境を整えた。【資料2-1-2】 【資料6-3-5】

今後の計画

- ・ 2025年度から本格的に利用を開始した「次世代の基礎医学DX教育システム」について、学生の利用促進や満足度の調査を行う。

根拠資料

資料2-1-2 組織学バーチャルスライド”PidPort”利用法説明（学生向け）資料

資料6-3-5_MeAV3Dとサービス I D 選択アプリの利用方法（学生用）

6. 4 医学研究と学識

質的向上のための水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 学生が医学の研究開発に携わることをより積極的に奨励し、医学研究と教育との相互関係を担保することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 学生が医学研究に関わる機会として、「高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成促進支援）」の採択を受けて、学生を研究スチューデントアシスタントとする制度を導入し、2024年度は学生18名が研究活動に参加した。【資料6-4-1】【資料6-4-2】
- ・ 「高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成促進支援）」において、研究成果を伴う学生には海外研修の機会を設け、2024年度は2名の6年次生が米国ノースウェスタン大学において海外研修を行った。【資料6-4-3】

今後の計画

- ・ 「高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成促進支援）」を継続し、意欲ある学生の研究スチューデントアシスタントとしての研究への参加や海外研修を行う。

根拠資料

資料6-4-1_免疫・アレルギー・感染症領域の高度な臨床・研究能力を有する医師養成事業概要

資料6-4-2_臨床研究教育プロジェクトチーム会議資料（第1回・第2回抜粋）

資料6-4-3_ノースウェスタン大学海外研修日程表

6. 6 教育の交流

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「福大ビジョン2040」に基づき国際化、地域共創の推進を図っている。
- ・ 「ふくいアカデミックアライアンス」を構築し、福井県内の8大学等が大学等間単位互換を制定している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 日本人学生と外国人留学生の連携、および正課・正課外教育を系統的に組み合わせることにより、世界に通用する専門能力を備えた人材を育成することを目的に、2024年度に国際センターと語学センターを統合し、グローバル・エンゲージメント推進本部を設立した。【資料6-6-1】
- ・ 2023年5月1日現在で医学部、医学系部門、附属病院との部局間協定は12大学であったが、2023年11月にベトナム国立皮膚疾患病院（ベトナム）、2024年度にはソルボンヌ大学（フランス）、韓国脳科学研究所（韓国）と新たに協定を結び、協定校は15大学に増加した。
- ・ コロナ禍において途絶えていた交流の活性化を図り、2022年度の学生の交流実績は計2名であったが、2023年度は計9名、2024年度は19名と順調に増加している。【資料6-6-2】

今後の計画

- ・ 発展途上国からの外国人正規留学生を増加させることを目的に、私費留学生に対する奨学金制度を新設する。
- ・ 研究室配属（3年次生）、診療参加型臨床実習Ⅱ（6年次生）で単位互換できる海外大学の選択肢を増やす予定である。

根拠資料

資料6-6-1_福井大学グローバル・エンゲージメント推進本部規程

資料6-6-2_国際交流（医学部）人数実績（年度別）

7. 教育プログラム評価

カリキュラムの教育課程と学修成果について、医学部教育IR部門が定期的にモニタし、解析している。医学部教育IR部門による分析結果を医学部入試委員会にフィードバックし、推薦地域枠を調整している。

プログラム評価委員会は、医学部教育IR部門が解析した結果に基づいて定期的に教育プログラム評価を行うべきである。教育プログラムの課題を特定し、評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。学生および教員から教育プログラムの優れた点、課題点についてフィードバックを系統的に求め、確実に対応すべきである。

7. 1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ カリキュラムの教育課程と学修成果について、医学部教育IR部門が定期的にモニタし、解析している。

改善のための助言

- ・ プログラム評価委員会は、医学部教育IR部門が解析した結果に基づいて定期的に教育プログラム評価を行うべきである。
- ・ 教育プログラムの課題を特定し、評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 医学科において設定しているアセスメント・ポリシーに基づいて、教育支援センター教育IR部門でモニタした教育データにより教育プログラムを評価している。プログラム全体については教育支援センタープログラム評価委員会および同医学科専門部会において評価している。プログラム評価用データは、計画的に集計し、定期的に開催される教育支援センター定例ミーティングにおいて順次分析し評価を行っている。
- ・ 2024年度は、2023年度に引き続き、教育支援センタープログラム評価委員会、及び同医学科専門部会を開催し、教育プログラムの評価分析を実施した。【資料3-2-2】 【資料3-2-3】
- ・ 2024年度の実施状況として教育支援センター定例ミーティングを年間9回予定し、このうち7回を定期的に開催し、短期評価・点検の実施、カリキュラム委員会、臨床実習委員会、学生委員会へのフィードバック等を行った。例として、シラバスをチェックし試験や再試験の実施と内容について検討を行いカリキュラム委員会へフィードバックを行っている。なお、定例ミーティングには、教員、職員その他、学生代表も加わっている。【資料7-1-1】 【資料7-1-2】
- ・ 福井大学として内部質保証体制を整備し、教育に関しては「福井大学における教育の内部質保証に関する要項」に基づき、大学全体の内部質保証の組織である教育内部質保証委員会の取りまとめにより、毎年、医学部における教育活動に係る自己点検・評価（モニタリング及びプログラム・レビュー）を実施し、結果を教育内部質保証委員会へ報告している。【資料7-1-1】 【資料7-1-2】 【資料7-1-3】 【資料7-1-4】 【資料7-1-5】 【資料7-1-6】

今後の計画

- ・ 教育プログラムのモニタを行っている教育支援センター教育IR部門によるデータについて、医学部プログラム評価委員会および同医学科専門部会、教育支援センター定例ミーティングにおいて分析と評価を継続して実施する。
- ・ 教育支援センター定例ミーティングは公式の委員会でないため、学生が参加できる形での委員会化を検討している。ここでは教育支援センタープログラム評価委員会、及び同医学科専門部会との役割分担、評価項目の検討、評価手法等についても検討することとしている。

根拠資料

資料3-2-2_令和6年度第1回医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会医学科専門部会議事要旨

資料3-2-3_令和6年度福井大学医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会議事要旨

資料7-1-1_令和6年度の医学部附属教育支援センター定例ミーティング開催予定日

資料7-1-2_令和6年度医学部附属教育支援センター定例ミーティング議事録（全7回）

資料7-1-3_福井大学内部質保証規程

資料7-1-4_福井大学における教育の内部質保証に関する要項

資料7-1-5_国立大学法人福井大学「学生の学びのための教育内部質保証」に関する基本方針

資料7-1-6_教育課程の自己点検・評価（モニタリング及びプログラム・レビュー）に関するガイドライン

7. 2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 学生および教員から教育プログラムの優れた点、課題点についてフィードバックを系統的に求め確実に対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 学生からのフィードバックを求めるため教育支援センターによるアンケート調査を定期的を実施し、カリキュラムレベルとして「カリキュラムアンケート」（5年次生を除く全学生対象）、各科目レベルとして「科目評価アンケート」を実施の上、教育支援センター定例ミーティングで分析及び改善検討をしている。【資料7-2-1】【資料7-2-2】【資料7-2-3】【資料7-2-4】
- ・ 教員に対してはカリキュラムに関して「令和6年度 医学部教員向けカリキュラムアンケート」を実施し、教育支援センター定例ミーティングで分析し、教員基幹会議で分析について説明を行った。【資料7-2-5】【資料7-2-6】

今後の計画

- ・ 学生に行う「カリキュラムアンケート」（5年次生を除く全学生対象）、各科目レベルとして「科目評価アンケート」を継続して実施し、教育支援センター定例ミーティング等で分析する。
- ・ 教員からのフィードバックの機会を、アンケート実施や関係委員会等により確保する。

根拠資料

資料7-2-1_医学科カリキュラム評価アンケート

資料7-2-2_科目評価アンケート

資料7-2-3_令和6年度第2回医学部附属教育支援センター定例ミーティング議事録

資料7-2-4_令和6年度第5回医学部附属教育支援センター定例ミーティング議事録

資料7-2-5_令和6年度医学部教員向けカリキュラムアンケート

資料7-2-6_令和6年度第7回医学部附属教育支援センター定例ミーティング議事録

7. 3 学生と卒業生の実績

基本的水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 学生に対して、使命と学修成果に関連した実績、およびカリキュラムに関連する客観的な実績調査を系統的に行うべきである。
- ・ 卒業生に対しても、学修成果の達成、カリキュラムに関連する項目を整理し、体系的に実績調

査を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 学修成果として設定しているアウトカム・コンピテンシーについて、5年次生を除く全学生に「アウトカム達成度自己評価アンケート」を教育支援センターが毎年実施し、分析を行っている。分析はデータ集計が終了する都度に教育支援センター定例ミーティングで行い、カリキュラム全体を通しては教育支援センタープログラム評価委員会およびプログラム評価委員会医学科専門部会において行っている。
- ・ カリキュラムに関して、5年次生を除く全学生に「カリキュラム評価アンケート」を実施している。その中では学修施設や履修支援システム（F.MOCE、F.CESSなど）についても意見聴取を行い、教育支援センター定例ミーティングで分析を行っている。【資料7-3-1】
- ・ カリキュラムを構成する科目の試験成績、医師国家試験合格率および不合格率、各学年の進級率と留年率に関しては、各学部において毎年実施する教育活動に係る自己点検・評価（モニタリング及びプログラム・レビュー）の結果について、大学全体の内部質保証の組織である教育内部質保証委員会においても分析を行っている。【資料7-1-6】

今後の計画

- ・ 教育支援センターが中心となり学生の実績については現在の調査を継続する。
- ・ 卒業生の実績については、これまでの調査では回収率が低いことから調査方法などについて教育支援センターにおいて検討し実施することとしている。

根拠資料

資料7-1-6_教育課程の自己点検・評価（モニタリング及びプログラム・レビュー）に関するガイドライン

資料7-3-1_令和6年度第1回医学部附属教育支援センター定例ミーティング議事メモ

7. 4 教育の関係者の関与

基本的水準：（判定）部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教育プログラムのモニタと評価を行うプログラム評価委員会医学科専門部会に学生代表が参画し、意見を述べている。

改善のための助言

- ・ 教育プログラムのモニタと評価を行うプログラム評価委員会ならびに医学科専門部会に主要な構成者が参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 教育支援センタープログラム評価委員会では、参加者として大学理事/副学長、医学科教授、看護学科教授、福井県健康福祉部課長、学外有識者として医学系大学教授・看護学系大学教授・教育関連病院長、医学部運営管理課長、医学部学務課長等が参加している。【資料7-4-1】【資料7-4-2】
- ・ プログラム評価委員会医学科専門部会では、附属病院副病院長、医学科教授、医学科学生代

表、医学科卒業生等が参加している。【資料7-4-1】 【資料7-4-3】

今後の計画

- ・ 教育支援センタープログラム評価委員会および同医学科専門部会について、現行の委員会構成で定期的に開催し、教育プログラムのモニタと評価を行っていく。

根拠資料

資料7-4-1_福井大学医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会委員要項

資料7-4-2_令和6年度医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会委員名簿

資料7-4-3_令和6年度医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会医学科専門部会委員名簿

8. 統轄および管理運営

福井県の地域医療向上のため、寄附講座を設置している。教員と学務課職員が連携し、教育プログラムと関連の活動が円滑に実施されている。「永平寺町立在宅訪問診療所」、「たかはま地域医療イノベーションセンター」などを通じて、総合診療、健康増進に関する地域交流を行っている。

8. 1 統轄

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 令和4年度大学設置基準等の改正に対応し、主要授業科目を担当する助教以上の教員を「基幹教員」として改めて位置づけ、「福井大学医学部基幹教員会議要項」を制定し、医学部の教育課程を編成し、円滑な実施を図ることを目的とする医学部基幹教員会議を開催している。【資料5-2-2】

今後の計画

- ・ 現在の組織体制を維持して医学部の運営を行う。

根拠資料

資料5-2-2_福井大学医学部基幹教員会議要項

8. 2 教学における執行部

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学長、医学部長、副医学部長、教育支援センター長、教育関連委員会委員長の責務が規定に明示されている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 2024年度に医学部長、副医学部長、教育支援センター長、教育関連委員会委員長を各種規定に基づいて新たに選考し、2025年度からの執行部体制を確立した。医学部長選考に際しては各候補者の医学教育に対する方針を所信表明の一部として明らかにした上で行った。【資料8-2-1】【資料8-2-2】

今後の計画

- ・ 新たな教学における執行部により教育プログラムの策定と管理を行う。

根拠資料

資料8-2-1_福井大学医学部長適任候補者選考実施要項

資料8-2-2_別紙様式第12号

8. 3 教育予算と資源配分

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 2024 年度に概算要求による基礎実習棟の全面改修を行い、実習室の改修、講義室の拡張、全室の空調システムなどの基盤整備と更新を行った。
- ・ 基礎医学実習に利用する教育実習システムを「次世代の基礎医学 DX 教育システム」として整備した。解剖学実習、生理学実習、組織学実習で用いる ICT 関連システムや講義実習で使用する AV システムを新調あるいは更新した。【資料 6-1-1】

今後の計画

- ・ 老朽化が進んだ臨床大講義室と小講義室について概算要求（施設設備事業）を行い、改修に向けて検討を進める。その際には学部予算の利用もあわせてより適切な講義室の整備を行う。

根拠資料

資料6-1-1_2024年度基礎医学実習棟改修概要

質的向上のための水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 福井県の地域医療向上のため、寄附講座を設置している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 福井県の地域医療の向上のため、「地域医療推進講座」「感染症学講座」「地域健康学講座」「地域プライマリアケア講座」「地域高度医療推進講座」の5寄附講座を設置し、医学教育にあたっている。【資料8-3-1】

今後の計画

- ・ 次年度以降も引き続き寄附講座を維持・運営し、福井県の地域医療向上に寄与する。

根拠資料

資料8-3-1_福井大学医学部医学科ホームページ（寄附講座）

<https://www.med.u-fukui.ac.jp/department/medicine/>

8. 5 保健医療部門との交流

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 福井県地域医療対策協議会や福井大学医学部・関連病院長会議など、地域社会や行政の保健医療部門や保健医療関連部門と建設的な交流を行っている。
- ・ 「永平寺町立在宅訪問診療所」、「たかはま地域医療イノベーションセンター」などを通じて、総合診療、健康増進に関する地域交流を行っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 「福井県地域医療支援センター」「たかはま地域医療イノベーションセンター」により地域との交流を進め、寄附講座「地域医療推進講座」「感染症学講座」「地域健康学講座」「地域プライマリアケア講座」「地域高度医療推進講座」により地域と連携した教育を進めている。【資料8-3-1】 【資料8-5-1】 【資料8-5-2】

今後の計画

- ・ 現在の体制を維持していく。

根拠資料

資料8-3-1_福井大学医学部医学科ホームページ（寄附講座）

<https://www.med.u-fukui.ac.jp/departement/medicine/>

資料8-5-1_福井県地域医療支援センターホームページ

<https://www.med.u-fukui.ac.jp/laboratory/community-medicine/center/>

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/iryou/iryojyujisya/chiikiiryoucenter.html>

資料8-5-2_たかはま地域医療イノベーションセンターホームページ

<https://www.t-comic.com/>

質的向上のための水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 低学年から地域の医療機関や保健所などの実習を通じて、地域医療現場での交流や協働が行われている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容

- ・ 健康増進と予防医学の体験の強化として、2024年度から医学科4年次必修科目「社会と医学・医療Ⅱ」内で、従来の環境保健学講座の教員に加えて地域健康学講座（寄附講座）の教員が一部の授業を担当することとし、併せて、学生全員が保健所実習を経験する授業内容への変更を行った。【資料2-5-1】

今後の計画

- ・ 保健所の実習を通じて、地域医療現場での交流や協働を推進する。

根拠資料

資料2-5-1 2024年度医学科授業要項THE SYLLABUS抜粋 371～374ページ「社会と医学・医療Ⅱ」

9. 継続的改良

大学改革支援・学位授与機構（旧大学評価・学位授与機構）による機関別認証評価を2009年度、2015年度、2022年度に受けた。教育支援センターが中心となり点検・評価ロードマップを作成し、教育プログラムの改良を開始している。また、今回の医学教育分野別評価によって医学教育の自己点検評価を行い、第三者評価を受け、継続的に改良を行っている。

今後、教育プログラム改善のための組織をより整備し、定期的に見直し、確実に改善する方法を策定すべきである。学修成果の評価、診療参加型臨床実習の実践、教育プログラム評価に課題を残しており、継続的な改良を進めることが期待される。

基本的水準：（判定）適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教育支援センターが中心となり点検・評価ロードマップを作成し、教育プログラムの改良を開始している。

改善のための助言

- ・ 教育プログラム改善のための組織をより整備し、定期的に見直し、確実に改善する方法を策定すべきである。
- ・ アウトカム・コンピテンシーの評価、診療参加型臨床実習の実践、教育プログラム評価に課題を残しており、今後一層の改善を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容

- ・ 教育支援センタープログラム評価委員会、同医学科専門部会、定例ミーティングによるカリキュラム評価を実施し、主に医学科カリキュラム委員会および教授会への報告と提言を行った。
【資料3-2-2】 【資料3-2-3】 【資料7-1-2】

今後の計画

- ・ プログラム評価の中心となる教育支援センターの規定の整備を進め、継続的な検証と改善を進める体制を更に整備する。

根拠資料

資料3-2-2_ 令和6年度第1回医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会医学科専門部会議事要旨

資料3-2-3_ 令和6年度福井大学医学部附属教育支援センタープログラム評価委員会議事要旨

資料7-1-2_ 令和6年度医学部附属教育支援センター定例ミーティング議事録（全7回）

質的向上のための水準：（判定）評価を実施せず